

シリーズ
人の間に

「今年も見事に壊れている」白山神輿を修復するのは、白山神社のすぐ近くに住む町分工務店の町分浩さんだ。6月初旬、八坂神社から神輿を作業所に運んだ町分さんは、まず壊れた部分の補修から始めた。「去年は神輿の人足に担いで持ってきてもらったけど、祭りを待ちきれない担ぎ手が神輿を道に落したり回したりとあばれ始めたんですよ。それで今年は大柵木の獅子舞保存会のみんなにお願いした」と苦笑い。以前からキリコを製作していた町分さんに、白山神社氏子総代から神輿の依頼が来たのは平成14年。「何てものを引き受けてしまったのかと今でも思う」と冗談交じりで笑う町分さん。平成14年

は神輿を新調するため、設計から取り組んだ。初めての神輿の設計をコンピュータで緻密に計算、設計段階で「カッコいい神輿を目指した」という町分さんだが、「次に設計するときには、直したいところも出てきた」とデザインにもこだわりをみせる。町分さん自身は、あばれ祭りはもっぱらキリコを担ぐキリコ人足だ。「本当は神輿があばれるところを見たいが、責任者があたってたりしてなかなか神輿を見に行けない」のが残念とのこと。「7月8日の晩までに間に合わせることを一番に考えて作業を進める町分さんが、1カ月を費やして仕上げた白山神輿は、8日の夜に警察署前から八坂神社へと動き出す。

町分 浩さん

まちぶん ひろし (46) 宇出津大柵木

小又秀夫さん

こまた ひでお (62) 宇出津梅の木

「祭りが好きやしゃできること」酒垂神輿の製作を担当する小又秀夫さんは今年、18回目の作業を迎えた。「最初は無理だと思って断った」という小又さん。どうしても頼まれた一年目は、小又さんの前に神輿を作っていた人と一緒に作業を行った。前任者の作業をみながら「これなら自分にもできる」と2年目からは自分の型を作り、一人で作業を始めた。屋根のサイズなど毎年少しずつ形を整えながら「何とか形になってきたと思う」と笑う。「心棒以外は全部作り直す」という小又さんのこだわりは、「とにかく頑丈に作ること」だそうだ。「酒垂の神輿はキリコの前の方で動く。神輿が壊れれば祭り全体に迷惑がかかる」との思いからだ。それでも毎年見事に壊れる神輿。「下手に作って担ぎ手が怪我しないようにいつも考えている」という小又さんも17歳から26歳までは、神輿の担ぎ手だった。現在は2日目の昼までキリコを担ぎ、夜は神輿について歩く。「祭り好きの人間として、神輿に携われることを誇りに思っている」という小又さんが、大工歴44年の匠の技で作る金色の酒垂神輿のあばれっぷりに注目だ。

相談でききる 場所が あります。

能登町地域包括支援センター
には3つの支所があります

高齢者の生活を支える総合機関として、4月から新しく能登町に設置された地域包括支援センター。各種専門員が、地域住民のみなさんとのネットワークを築き、支援が必要な高齢者・ご家族のあらゆる相談にお応えします。

能都、柳田、内浦の支援センター各支所では、配置されている福祉の専門員が、みなさんからの相談をお受けします。
お気軽にご連絡ください。



家族の思いも受け入れます



地域に福祉の心を配ります



みんなが笑顔になれるように

内浦支所 ☎ 72-8885
(第二長寿園内)

介護支援専門員 内木重美さん

保健、福祉、医療、さまざまな支援に関するお話を聞かせていただきます。支援を受けたい本人以外の家族の方も、なんでもご相談ください。

電話の声だけではなく、お家を訪ねて現状をしっかりと把握し、みなさんの心配事について一緒に考えます。

柳田支所 ☎ 76-0980
(多花楽会内)

介護支援専門員 砺波守法さん

「福祉」についてよく分からないという方に対して、福祉サービスを受けていただく一助になればと考えています。

地域で支え合い、住み慣れた町で元気に暮らせるよう、みなさんのプライバシーを守りながら地域福祉の受け皿として活動できればと思います。

能都支所 ☎ 62-3666
(藤波デイサービスセンター内)

介護支援専門員 本谷幸代さん

お家を訪問した際に高齢者の方が、家族の手を少しでも煩わせず暮らしたいと、がんばっていらっしゃる姿に感動することが多いです。

住み慣れた家、能登で健康を維持しながら暮らせるよう、お手伝いをさせていただきたいと思えます。

■問い合わせ 能登町地域包括支援センター（役場 長寿介護課内） ☎ 72-2513

第3回臨時会 第2回例会

議会議員の6月支給分
期末手当を20%削減

第3回能登町議会臨時会は、5月29日に招集されました。会期を1日とし、報告7件と議案提出議案1件が審議されました。平成17年度一般会計補正予算や税条例の一部を改正する条例などの報告7件は承認され、議案議案1件は原案のとおり可決しました。

各公共施設の指定管理者が決定

第2回能登町議会定例会は、6月9日に招集され、会期は15日までの7日間とされました。「平成17年度一般会計繰越明許費繰越計算書について」などの報告4件、平成18年度一般会計補正予算や公の施設の指定管理



者の指定についてなどの町長提出議案22件、諮問1件が上程されました。人権擁護委員候補者の推薦についての諮問は、新谷悦子さん（小木）を適任とすることに決定し、その他の議案は各常任委員会に付託され、審議されました。

15日の採決では、報告4件は承認され、町長提出議案22件は原案のとおり可決されました。また、継続審議となっていた陳情1件は、審議未了と決定しました。

引き続き、町長から追加提出された請負契約の締結に関する議案3件が追加議案として上程され、原案のとおり可決されました。

最後に、7人の議員から提出された議会議案「能登町公共事業に関する議員倫理条例の制定について」が上程され無記名投票の結果、否決されました。

第3回臨時会において承認された報告

○平成17年度一般会計補正予算（第8号）▼歳入歳出それぞれ2475万7千円を減額し、総額を183億5550万1千円とする。

○平成17年度有線放送事業特別会計補正予算（第3号）

○平成17年度国民健康保険特別会計補正予算（第3号）

○平成17年度老人保健特別会計補正予算（第2号）

○税条例の一部を改正する条例について

○国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

◆可決された議会議案

○議会議員等の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について

▼平成18年6月30日に支給する期末手当の額を20%減額

◆第2回定例会において承認された報告

○平成17年度一般会計繰越明許費繰越計算書について

○平成17年度有線放送事業特別会計繰越明許費繰越計算書について

○平成17年度公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書について

○平成17年度水道事業会計繰越計算書について

◆可決された議案

○平成18年度一般会計補正予算（第1号）▼歳入歳出それぞれ1億691万4千円を追加し、総額を139億9691万4千円とする。

○平成18年度国民健康保険特別会計補正予算（第1号）

○平成18年度老人保健特別会計補正予算（第1号）

○平成18年度観光施設特別会計補正予算（第1号）

補正予算（第1号）

○平成18年度浄化槽整備推進事業特別会計補正予算（第1号）

○能登町地区集会所等条例の一部を改正する条例について

○能登町国民保護対策本部及び能登町緊急対処事態対策本部条例について

○職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について

○長期継続契約を締結することができる契約を定める条例について

○能登町立公民館条例の一部を改正する条例について

○能登町浄化槽市町村整備促進事業の整備に関する条例の一部を改正する条例について

○新たに生じた土地の確認について

○字及び小字の区域の変更等について

○公の施設の指定管理者の指定について（8件）

○公有水面埋立てに関する意見について

○請負契約の締結について（3件）

◆否決された議会議案

○能登町公共事業入札に関する議員倫理条例の制定について

▼無記名投票

賛成16、反対21、白票2

水防訓練
水害に備え、各地で訓練

能登町水防訓練が6月4日、能都庁舎前で行われ消防団員、消防署員、役場職員ら175人が参加しました。この訓練は、住民の防災意識の高揚を図ることを目的に行われ、町内の沿岸地域および河川に大規模な災害が発生するおそれがあるという想定で行われました。訓練では、1袋に約20kgの砂を詰めた土のうを作り、堤防のように積み上げる作業や、土のうを大きな袋にひとまとめにし、より有効的な1トン土のうなどを作る作業などが行われました。また11日には、柳田分署、内浦分署前でも水防訓練が行われ、連携体制の強化に努めました。



担当者の指示に従い、迅速かつ的確に進められる訓練作業

本物の芸術は生徒たちの心を豊かにしてくれます



オーケストラ鑑賞教室
モーツァルトがやってきた!?

町内全中学生を対象としたオーケストラ鑑賞教室が6月1日に開催され、柳田中学校に集まった約600人が本物のオーケストラに触れました。今回の演奏会は「モーツァルト物語」をテーマに、今年生誕250年を迎えた天才作曲家モーツァルトの作品を指揮者がストーリー性のある進行で紹介していくという内容です。モーツァルトに扮した指揮者の三河正典さんは、曲の演奏を通して、モーツァルトがどんな人間だったか、どんな人生を送ったか、わかりやすく生徒たちに話しかけながら演奏会を進めてくれました。

クリーンビーチいしかわ in のと
海は世界に繋がっている

雨模様の中、清掃に汗を流す参加者



海岸線をきれいにする活動「クリーンビーチいしかわ in のと」が5月28日に、五色ヶ浜海水浴場、恋路海水浴場、羽根海岸で行われました。今年で11回目を迎えたクリーンビーチいしかわは、県下の海に面した市町で一斉に海岸線の清掃活動を実施し、環境保全ならびに地域の美化推進を図るため実施しています。

各海岸では、早朝から約300人が参加して、流木や海藻、空き缶などのゴミを次々と集めて、1時間ほどできれいな海岸線を取り戻していました。

稚鮎放流事業
鮎が元気に泳ぐ川に

梶川、寺田川、山田川に6月9日、稚鮎が放流されました。河川環境保全や魚資源保護のために町が毎年実施している事業で、今年は3河川、5カ所に約1万匹の稚鮎が放流されました。悪天候のため、予定されていた保育所園児による放流は中止され、「鮎友の会」のみなさんによる放流となりました。滋賀県の琵琶湖で体長約10cmまでに育った稚鮎は、川へ放たれると元気に泳いでいきました。この鮎が元気に育つきれいな川を、わたしたち大人が残していけるように、河川環境保護に努めましょう。



稚鮎を放流する「鮎友の会」の会員

プールが1年中利用できる「なごみ」で元気に泳ぐ園児



内浦保育所・白丸保育所 なごみでプール
なごみのプールに行ったよ

内浦保育所と白丸保育所のすみれ組13人が、6月20日に能登七見健康福祉の郷「なごみ」を訪れ、プール遊びを楽しみました。水着に着替えた園児は、準備体操をしたあとに水深が浅いキッズプールに入って、来年から同じ学校に通う友だちに自己紹介をしました。その後、流水プールやジャグジーなどいろいろな形のプールを探検。プールを1周したあとは、輪になって歌遊びなどを楽しんだり、ビート板を使ってバタ足で泳いだりと、元気一杯に遊びながら水に親しんでいました。

プロムナードコンサート
アイラブミュージック!

「地元で楽しい音楽会を」をテーマに、能登町音楽愛好会が主催する第27回プロムナードコンサートが5月28日、能都庁舎4階ホールで開催されました。コンサートには、中学校、高校の吹奏楽部やママさんコーラスなど9組が出演してさまざまなジャンルの音楽を披露しました。会場には約350人が訪れ、一緒に口ずさんだり、手拍子を打ったりと思いに音楽を楽しんでいました。音楽会の最後には、出演者、来場者全員で「翼をください」を合唱し、会場は素敵なハーモニーに包まれていました。



元気一杯に演奏する能都中学校吹奏楽部のみなさん

贈られた100本の花を楽しそうに植える児童



人権の樹・人権の花運動
育てたい、優しい心

子どもたちに人権を大切にすることを育ててもらおうと、5月23日に人権擁護委員が柳田小学校、宇出津小学校を訪れました。柳田小学校では、優しい、思いやりのある心を持ってもらおうと、6年生に「ハナミズキ」の木が贈られました。児童らは「一生懸命育てたい」と人権擁護委員に約束していました。宇出津小学校では、人権の花として「サルビア」や「マリーゴールド」など約100本が贈呈されました。児童らはプランターに丁寧に植え、「この花を大切に育て、人権を大切にすることをしっかり育てます」とお礼の言葉を述べていました。

宇出津小学校 団結綱引き
勝利もみんなで引き寄せろ！

来年の春に統合を予定している、宇出津小学校と神野小学校の全校児童が6月12日、団結綱引き大会を行い交流を深めました。この大会は、宇出津小の伝統行事で、紅白に分かれて戦います。また紅白の応援団が繰り広げる息のあった応援合戦も見どころのひとつです。子どもたちの活躍を一目見ようと、保護者のみなさんも大勢集まりました。低・中・高学年同士で勝負を行い、今年は白組が見事総合優勝に輝きました。初めてこの行事に参加した神野小の1年生は「練習してきた応援もできたし、友だちもできてよかった」と話していました。



紅勝て！白勝て！応援団の声援に応えてがんばって

女性スポーツフェア
心とからだも健康に

女性スポーツフェアが6月18日、能登町婦人団体協議会の会員160人が参加して内浦体育館で開催されました。参加者は6チームに分かれて、4種類の対抗競技を行いました。テニスラケットにソフトバレーボールを乗せて運ぶ「スプーンレース」や、大きなボールをふたりに運ぶ「アリのえさ運び」などのユニークな競技を楽しみ、会場内では笑い声と歓声が響きました。

この後は、能登町〇×クイズや、音楽に合わせて体を動かす、ジャザサイズやフォークダンスなどで、爽やかな汗を流して親睦を深めました。



三宅直美さん指導のもとジャザサイズを楽しむ参加者

手作りのかわいい腕時計をつけてハイポーズ



神野保育所 時計作り
大きな時計ができちゃった！

時間の大切さと、規則正しい生活習慣について学ぼうと6月8日、神野保育所の3・4・5歳児が時計作りに挑戦しました。6月10日の時の記念日にちなんで行われたこの行事。年長さんが書いた数字や、一人ひとりが描いた好きな絵を大きな文字盤に貼り付けて手作りの時計を作り上げました。子どもたちは、先生と一緒に完成した時計の針を動かしながら、食事の時間や、寝る時間などについて勉強しました。この後、前日に紙コップなどで作った腕時計をした子どもたちは、大きな手作り時計の前で記念撮影をしていました。

よーいドン！広い芝生で元気に走り回る園児



柳田保育所 親子遠足
いっぱい遊んできたよ

柳田保育所の親子遠足が5月26日に行われました。この遠足は、親子のふれあいをより深めてもらおうと、毎年この時期に行われているものです。園児たちは保護者と手をつないで大型バスに乗り込み、赤崎いちご園に到着すると、手を真っ赤にしながらかきつけたいちごを口いっぱいほおぼっていました。その後、緑の芝生が広がる内浦総合運動公園に場所を移し、ゲームやダンスをして楽しみました。初めてこの行事に参加したお母さんは「子どもたちの嬉しそうな姿が見られて良かったです」と話していました。

のと縄文祭
暮らしに生きる縄文の土

縄文土器の素晴らしさを伝えようと、6月16日から19日までの4日間、のと縄文工房（鶴川）で「のと縄文祭」が開催されました。「暮らしの中の焼き物」をテーマに、庭先や玄関、階段などの見慣れた風景の中に、花器やランプカバーなど工房会員20人の力作およそ100点が展示されました。訪れた人には、そうめんやコーヒーが無料で振る舞われ、また即売コーナーでは、気に入った湯飲みやカップなどを購入される姿も見られました。会員らの熱意が込められた作品の数々が、県内外から訪れた観客の目を楽しませました。



▲見ているだけでしあわせになれるそうなお地藏さん

◀展示コーナーで作品の説明をする、のと縄文工房会長の山中梅峰さん

サツマイモの苗を寝かせて土の布団をかぶせませす



しらさぎ保育所 サツマイモ苗植え
大きなサツマイモになって

5月31日、しらさぎ保育所のすみれ組16人が、保育所中庭でサツマイモの苗植えに挑戦しました。まず始めにナス、キュウリ、ピーマンの苗を植えたあと、約60本のサツマイモの苗を丁寧に植えました。

苗を植えた園児らは、サツマイモが元気に育つように声をかけながら水をやっていました。これから毎日、水やりなどの世話を園児たちが行います。秋には自分たちが育てたサツマイモを収穫し、スイートポテトや焼き芋にして食べる予定だそうです。たくさん取れるといいですね。



お兄ちゃん、ちゃんと磨けてる？